

令和5年度第1回甲賀市スポーツ推進審議会 概要報告

1. 開催日時 令和5年8月18日（金）午後7時30分から午後9時15分まで
2. 開催場所 甲賀市役所別館 1階 101会議室
3. 議題
 - *報告事項
 - ・甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について
 - *協議事項
 - ・国スポ・障スポを契機としたスポーツに対する機運醸成の取り組みについて
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者
 - 委員 小澤委員、山崎委員、福井委員、大原委員、宇田委員、谷口委員、村上委員、倉谷委員、赤尾委員、杉本委員
以上10名
 - 事務局 立岡教育長、教育委員会事務局柚口教育部長、福井次長
社会教育スポーツ課 伊東課長、服部課長補佐、藤谷係長
国スポ・障スポ推進室 北村室長
6. 傍聴者数 0人
7. 会議資料
 - ・甲賀市スポーツ推進計画
 - ・令和5年度から令和7年度までの重点施策
 - ・甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について
 - ・わたSHIGA輝く国スポ・障スポ甲賀市実行委員会資料
 - ・国民スポーツ大会開催等を契機とした市民スポーツに対する機運の醸成

8. 議事の概要（※今年度から委員の発言を要約としています。）

○出席委員数の報告

審議会委員12名のうち、出席委員が10名であることから、甲賀市スポーツ推進審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告。

○報告事項 甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について

委員 中学校部活動について、県の審議会では土日のみを地域移行すると聞いたが、全国的には平日も含めて動いているところがある。生徒の事情などを把握する必要があるため、平日の指導はせずに土日のみ指導するというようなことはできないので、市では独自の制度を作してほしい。

事務局 地域移行について、市としての明確な方針は決まっていないが、委員のご意見は普段から感じるところである。国や県の方針が市に合う内容であるかは精査する必要があるため、慎

重に検討すべきと考えている。

- 会長 甲賀モデルを模索していくという話であった。しっかり検討していきたい。
- 委員 部活動に関して言えば、今後3つの方向性で動く。1つは、総合型地域スポーツクラブへの地域移行である。2つは、複数校合同での参加である。3つは、拠点校方式である。土日だけの地域移行では生徒のためにならないと思っている。生徒には完全下校時刻があるし、甲賀市は広範囲なので移動の問題があり、精査が必要となる。他府県ではクラブチームで大会に出場されているし、優勝されている事例もある。滋賀県は本当に遅れていると思う。
- 委員 メジャースポーツに取り組んでいる子どもは、親も一生懸命なので継続できると思う。マイナーな競技に取り組んでいる生徒もいるし、そうした生徒への教育的な要素は議論の中で忘れられている。親の送迎ができない子どもをどう助けるのかといったことをベースの中で組んでおかないとその子どもは不利になる。例えば、バドミントンでは協会と一っしょに活動しているが、総合型地域スポーツクラブの活動となるので、生徒は一度帰宅してから来ていただくことになるが、こうした地域移行ならすぐにでもできる。夕方までの時間帯で指導ができるクラブはないと思う。地域性を鑑みて答えを出さないといけない。
- 委員 卓球協会の事例が参考になればと思い紹介する。毎週金曜の18時から20時まで一般の方も含めて教室を開催しており、中学生には無料で参加いただいている。中学生は20人くらい来られているが、強くなりたい子もいるし、楽しみたいという子もいる。まずは集まることで交流が生まれると思う。そこに、障がい者も一っしょに活動することで、共生社会のスタートにもなるし、障がいのある子も来てくれるようになる。予算が付けば指導者の参加も見込めると思う。
- 会長 部活動の地域移行については、若い先生を含め、多くの意見をお聞きして甲賀市に合った方針を検討していきたい。
- 委員 市内には中高一貫校があるが、県の資料では地域移行の対象から外れており、県担当者も回答できない状態であった。市としてのすり合わせが必要だと思う。
- 委員 部活動の地域移行については、教員の働き方改革のためということが聞こえてくるが、子どもたちにいかにスポーツの機会を与えながら成長に結びつけるのが重要である。子どもたちの親の所得には差があるし、市内では移動距離もあるので送迎などの課題もある。地域の協力により補填ができるかがポイントになる。子どもたちの居場所づくりをどうするのか、育成を第一に考えないと無理が出る。親の協力の有無によらず、どの生徒も平等に機会を与えないといけない。
- 委員 子どもたちのこともあるが、指導者のことを心配している。スポーツ少年団には若い指導者が多いが、ほとんどが働いておられるので、今の中学校部活動の指導をすることは難しい。しかし、スポーツ少年団では有資格者による指導を行っているので、中学校の部活動の指導ができる資質を持った指導者である自信がある。幼児向けの運動遊びイベントを開催しており、多くの参加を得ているが、どの団体でも子どものことを一番大事にするという気持ちは同じだと思うので、甲賀市ならではの協力体制を作れたらと思う。
- 委員 夢の学習は無料で実施されているので、総合型地域スポーツクラブで参加してくれる子どもたちは半分くらいになった。クラブとして夢の学習の事業を手伝っているが、参加者のドタキャンやダブル予約などがあり、教育的にも問題があると感じている。それに4千万円も委託料を支出するのはどうかと思う。市として、受益者負担かどうかは統一してほしい。障が

い者スポーツについては、クラブ設立当初から取り組みたかったが、会費で会員以外を対象にした事業ができなかった。県や市の補助金をいただくことでようやくできるようになった。そうすると、子どもたちの顔や家庭の事情も分かってくるし、地域の中でも配慮ができる。

委員 健康推進員について、今年度から手上げ方式にされたが、どうしてそうなったのか。健康推進員の数は極端に減ると思う。他の役員にも影響があることだと思うので、市は、そうした部分が区長任せになっていないか確認してほしい。

事務局 夢の学習については話し合いをしているが、解決には至っていないので、引き続き交渉していく。

委員 健康推進員には運動部があるが、総合型地域スポーツクラブが取り組んでいるのは生涯スポーツなので、同じことをしていると思う。

会長 1つ1つは大切な組織だと思うので、すみわけをしてほしい。

委員 公共施設の料金の見直しが行われているが、スポーツ振興団体についてはどういう方向になっているのか。

事務局 減免の部分については、統一されていない状態である。来年度から、お示ししている案により統一する見込みである。市の関係団体には減免があるが、夢の学習は委託事業であることから使用料がかからない。このことにより他の団体への影響が出る点は懸念している。

委員 くれぐれも協力すべき団体間で足を引っ張りあうことのないようにしてほしい。

委員 健康推進員ではウォーキングを推進しており、会員研修を実施している。市の広報紙にも教室開催の案内が掲載されているが、1年を通じた案内ができないか。また、びわテクの案内をしているがアプリが広がらない。スポーツされている場所でポイントが獲得できるようにしてほしい。また、高齢者の運動については、コロナが5類になったことで、100歳体操の取り組みを再度始めたところである。

○協議事項 国スポ・障スポを契機としたスポーツに対する機運醸成の取り組みについて

委員 国スポ・障スポについて、特に、障がい者スポーツでは開会式が終わると選手と役員だけになることが多いが、一番大事なのは選手を見てもらうことだと思うので、各会場をいっぱいにする施策を考えていただきたい。障がい者スポーツを理解することから始めればよいと思う。小学校3、4年生のクラスで国スポ・障スポを知っているか聞くと、40～50%くらいの子しか知らない。今の小学生たちが障がい者を理解して、やがて世の中に出ていくことになる。帰ったら親に話をするので親の理解も進む。高校生もボランティアとして参画できる。そうしたことも周知すべきである。障がい者が頑張っている姿を見ることは重要なので、そうした教育的な取り組みをしてほしい。選手の強化にも取り組んでいるが、そうした練習にも参画してほしい。オリパラやボランティアなどについては、アンケート調査してほしいと思う。

委員 ボッチャの用具については、社会福祉協議会などで貸し出しをされている。ボッチャがどういうものか、体験してみることが大事だと思う。健康推進員でも研修の中で実施し、面白さが理解できた。

委員 ボッチャについては、スポーツ推進委員が自治振興会を回って説明を行っているし、健康推進員への指導も行っている。周知が足りない点は反省しており、各地域に指導に回っている。用具は体育館にも置いているので、教育委員会に相談してほしい。

委員 国スポ障スポを盛り上げることとそのレガシーとは分けて話をしたほうが良い。鹿児島大会では盛り上がり欠けるという話があったが、看板を立てるなどしてそのようなことのないようにしてほしい。

委員 競技とレガシーということでは、総合型地域スポーツクラブが選手をお呼びして、イベントを開催したことがある。市内には体育館が複数あり、床材なども違うが、うまく使えば全国大会もできるとおっしゃっていた。イベントの際は、障がい者が50人くらい来られたが、障がい者用トイレが1つしかない点が課題であった。クラブから自治会への出前教室をしたら、後日、用具を購入された事例もある。人気があるし取り組みやすいスポーツであるので、引き続き普及していきたい。

○閉会

以上